

## 引用文献

- 阿保順子(1993). 痴呆老人のコミュニケーションにおける3つのレベル：痴呆老人の生活世界への理解に向けて. 看護研究, 26(6), 529-551
- 阿保順子(2010). 言葉が消えようとする時. 老年看護学. 日本老年看護学会誌, 14(2), pp21-24
- Acton, GJ., Mayhew, PA., Hopkins, BA., & Yauk, S. (1999). Communicating with Individuals with Dementia. *Journal of Gerontological Nursing*, 25(2), 6-13
- Afzal, N., Buhagiar, K. Flood, J. Cosgrave, M. (2010). Quality of end-of-life care for dementia patients during acute hospital admission: A retrospective study in ireland. *General Hospital Psychiatry*, 32(2), 141-146
- 新井平伊(2011). アルツハイマー型認知症の諸問題を再考する：認知症を包括的に支援するために. 日本の認知症医療の10年後を考える. 老年精神医学雑誌, 22(増刊 I), 162-165
- Boden, C. 著. 桧垣陽子訳(2003). 私は誰になっていくの? アルツハイマー病患者からみた世界, クリエイツかもがわ
- Cohen, D. (1986). *The Loss of Self. A Family Resource for the Care of Alzheimer's Disease and Related Disorders*. UNI Agency. 佐々木三男監訳(1988). 失われてゆく自己—ぼけと闘うすべての人々への心からなる手引書. 同文書院
- 福田珠恵(2005). 老年期に痴呆症という病を生きる体験 「自己の存在の確かさを求めて」 病の兆候からグループホーム入居後まで. 日本看護科学会誌. 25(3), 41-50
- 古村美津代, 石竹達也 (2010). 認知症高齢者グループホームにおけるケアスタッフが抱える困難 インタビュー調査における質的検討. 久留米医学会雑誌, 73(7-8), 217-224
- 古屋博子(2008). 高齢者福祉施設における援助職者の態度及び意識と不適切なケアの実態調査. 高齢者のケアと行動科学, 14(1), 20-28
- Hall, S., Kolliakou, A., Petkova, H., Froggatt, K., & Higginson, I. J(2011). Interventions for improving palliative care for older people living in nursing care homes. *Cochrane Database of Systematic Reviews (CDSR)*, 3, CD007132.
- 堀内園子(2010). 認知症ケアの専門性 デイケア看護師による認知症高齢者の「鉦脈を掘り当てる関わり」と「磁場」の形成. 日本看護研究学会雑誌 33(2), 35-47

- 細川淳子, 佐藤弘美, 高道香織, 天津栄子(2004). 痴呆性高齢者のグループ回想法実施時における表情の特徴. 石川県立看護大学年報. 4, 118-120
- 伊東美緒(2011). 不同意メッセージへの気づき 介護職員とのかかわりの中で出現する認知症の行動・心理症状の回避にむけたケア. 老年看護学:日本老年看護学会誌, 15(1), 5-12
- Jeff, A., Small, S. K. (1997). Sentence Comprehension in Alzheimer's Disease, Effect of Grammatical Complexity, Speech Rate, and Repetition. *Psychology and Aging*, 12(1), 3-11
- Jude, R. (2009). Home Again : Small Houses for Individuals with Cognitive Impairment. *Journal of Gerontological Nursing*, 35(8), 10-15
- Katharine Kolcaba. (2003). Comfort Theory and Practice:A Vision for Holistic Health Care and Research. 太田喜久子監訳(2008). コルカバ コンフォート理論 理論の開発過程と実践への適用, 医学書院
- 加藤伸司(2008). 【最新の認知症ケア】 認知症ケアはここまで進んだ. 老年精神医学雑誌, 19(6), 629-635
- 川村雄次(2011). 【アルツハイマー型認知症の諸問題を再考する】 認知症を包括的に支援するために 取材を通してみえてきた認知症医療・ケアの課題. 老年精神医学雑誌, 22(増刊 I), 155-161.
- Kiely, DK., Volicer, L., Teno, J., Jones, RN., Prigerson, HG., & Mitchell, SL. (2006). The validity and reliability of scales for the evaluation of end-of-life care in advanced dementia. *Alzheimer Disease & Associated Disorders*, 20(3), 176-181
- KishikawaYusuke, FriedlandRobert P., UedaHideki, KitabayashiYurinosuke, FukuiKenji(2007). アルツハイマー病における自殺の社会心理的背景 日米アルツハイマー病患者 2 症例の比較ケーススタディ(Socio-psychological factors in suicide with Alzheimer's disease: comparative case studies of two patients in the USA and Japan)(英語) *Psychogeriatrics*, 7 (1), 37-39
- 小長谷陽子(2010). 認知症の人の看取りにおける医療と介護の連携に関する研究 医療法人と社会福祉法人運営のグループホームへのアンケート調査より. 日本老年医学会雑誌, 47(5), 452-459

厚生労働省(2008) 認知症対応型共同生活介護の利用状況

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/11/dl/s1128-8c.pdf>

厚生労働省(2008) 地域密着型サービスの創設

[http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0724-4b\\_0004.pdf](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0724-4b_0004.pdf)

厚生労働省(2009) 認知症対応型共同生活介護の概要

[http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/05/dl/s0521-3c\\_0018.pdf](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/05/dl/s0521-3c_0018.pdf)

厚生労働省(2009) 精神保健医療福祉の更なる改革に向けて

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/dl/s0924-2a.pdf>

厚生労働省(2011) 中央社会保険医療協議会総会審議会議事録

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000014xdw.html>

厚生労働省(2011) 「第19回新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム」の  
朝田構成員提出資料

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001kmqo-att/2r9852000001kxx1.pdf>

厚生労働省(2012) 平成24年度介護報酬改定に関する審議報告

社保審一介護給付費分科会第88回(H24.1.25)資料

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002113p-att/2r985200000212hj.pdf>

Lindström, I., Gaston-Johansson, F., Danielson, E. (2010), Patients' participation in end-of-life care: Relations to different variables as documented in the patients' records. *Palliative & Supportive Care*, 8(3), 247-253

Lincoln, YS., Guba, E. *Naturalistic Inquiry*(1985). Thousand Oaks, CA: Sage,  
Mayhew, P. A., Aacton, G. J., Yauk, Sheryl., et al.(2001). Communication from Individuals with Advanced DAT, Can It Provide Clue to Their Sense of Self-Awareness and Well-Being? . *Geriatric Nursing*, 22(2), 106-110

水野裕(2004). quality of care をどう考えるか—Dementia Care Mapping(DCM)をめぐって. *老年精神医学雑誌*, 15(12), 1384-1391

向井紀子, 細川真智子, 山本佳子, 桐野知子(2006). アルツハイマー型認知症患者の情動の安定と日常生活動作拡大への「笑い」の影響. *日本看護学会論文集: 精神看護*. 37, 214-216

室伏君士著(2008). 認知症高齢者へのメンタルケア. *ワールドプランニング*. p170

- 縄秀志(2006). 看護実践における"comfort"の概念分析. 聖路加看護学会誌  
(1344-1922)10(1) , 11-22
- Nightingale, F. (1859). Notes on Nursing. London : Harrison.
- Norman, H. K., Norberg , A., Aspulund, K. (2002). Confirmation and lucidity during conversation with a severe dementia, *Journal of Advanced Nursing*, 39(4), 370-37
- Nigard, L. , Borrell, L. (1998). A life-word of Altering meaning: Expressions of the illness experience of dementia in everyday life over three years. *Occupational Therapy Journal of Research*, 18(2), 109-136
- 小口芳世 et al. (2011). 認知症における遂行機能障害. 老年精神医学雑誌, 22(11), 1241-1245
- 奥村朱美, 内田陽子 (2009). 介護老人保健施設入所中の認知症高齢者のニーズの特徴. 老年看護学, 13(2), 97-103
- 太田喜久子(1994). 痴呆性老人と主たる介護者との家庭における相互作用の特徴 痴呆性老人の「確かさ」へのこだわりを焦点をあてて. *日本看護科学会誌*, 14(4), 29-37
- Phinney, A. (1998). Living With Dementia From the Patient's Perspective. *Journal of Gerontological Nursing*, 24(6), 8-15
- Roper, JM. , Shapira, J. , (2000): *Ethnography in Nursing Research*. Sage Publications, CA. 麻原きよみ, グレグ美鈴 訳(2003). 看護における質的研究 1 エスノグラフィー, 日本看護協会出版会
- 佐居由美(2005). 和文献にみる「安楽」と英文献にみる「comfort」の比較 Rodgers の概念分析の方法を用いている日米 2 つの看護文献レビューから. 聖路加看護大学紀要 (31), P1-7
- 新家早紀, 松波美紀, 武藤吉徳(2009). 施設で過ごす認知症高齢者が表出する感情に関する一考察. *日本看護学会論文集 : 老年看護*. 39, 234-236
- Spradley, J. P. (1980). *Participant Observation*, 田中美恵子・麻原きよみ監訳(2010). 参加観察法入門, 医学書院, pp85
- 諏訪さゆり, 吉尾千世子, 瀧断子 & 桑田美代子 (2001). 痴呆性高齢者の言動の意味の分析 その人らしさを尊重したケア技術確立に向けて. *東京女子医科大学看護学部紀要*, 4, 11-18

- 鈴木千絵子(2009). 中等度進行過程におけるアルツハイマー病患者の生活世界 面談による現象学的アプローチの試み. 看護・保健科学研究誌. 9(1), 160-169
- 高山成子, 水谷信子(2000). 中等度・重度痴呆症高齢者が経験している世界についての研究. 老年看護学, 5(1), 88-95
- 高山成子, 水谷信子(2001). 中等度・重度痴呆症高齢者に残された現実認識の力についての研究 看護者との対話から. 日本看護科学会誌, 21(2), 46-55
- 田中 美恵子(2009). 特集・言葉にならない技術の共有・伝達・創発—暗黙知の学際的検討. インターナショナルナーシングレビュー, 32(4), p 17
- Tom, K., (1997). 高橋誠一訳(2005), 認知症のパーソンセンタードケア 新しいケアの文化へ, 筒井書房
- 内ヶ島伸也, 加賀谷泰子(2003). 重度アルツハイマー型痴呆患者の豊かな情動を引き出すために Negative AffectからPositive Affectへ. 日本看護学会論文集: 老年看護, 33, 41-43
- Volicer, L., Hurley, AC., Blasi, ZV. (2001). Scales for evaluation of end-of-life care in dementia. Alzheimer Disease & Associated Disorders, 15(4), 194-200
- 山口宰 (2005). 認知症高齢者介護におけるグループホームケアの効果に関する実証的研究. 社会福祉学, 46(2100-111)
- 山下真理(2010). 認知症高齢者のつながりのニーズに関する質的分析—主観的世界を展開する意味—. 首都大学東京・東京都立大学心理学研究, (20), pp45-53
- 湯浅美千代, 小川妙子(2007). 重度認知症高齢患者に対するケアの効果を把握する指標の開発(第1報) 心地よさ"comfort"の概念をとり入れた指標の事例適用. 千葉看護学会誌, 13(2), 80-88

## 参考文献

- グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著(2007). よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして, 医歯薬出版
- Heather Wilkinson (2002). The perspectives of people with dementia: research methods and motivations, Jessica Kingsley Publishers
- ジェーン・キャッシュ, ビルギッタ・サンデル著, 訓覇法子訳 (2006). 認知症の人とともに：認知症の自我心理学入門. 改訂新版. クリエイツかもがわ
- 梶田叡一著(1998). 意識としての自己：自己意識研究序説. 金子書房
- 箕浦康子編著(1993). フィールドワークの技法と実際：マイクロ・エスノグラフィー入門. ミネルヴァ書房
- 三井さよ著(2004). ケアの社会学：臨床現場との対話. 勁草書房
- 宮田 裕章, 大久保 豪, 吉江 悟, 甲斐 一郎(2011). 社会医学領域における定性的研究の評価基準の活用の検討. 日本衛生学雑誌, 66, 83-94
- 大井玄著(2008). 「痴呆老人」は何を見ているか. 新潮社
- P. エクマン, W. V. フリーセン著(1987). 工藤力訳編：表情分析入門：表情に隠された意味をさぐる, 誠信書房
- R.M.エマーソン, R.I.フレッツ, L.L.ショウ著, 佐藤郁哉, 好井裕明, 山田富秋訳(1998). 方法としてのフィールドノート：現地取材から物語（ストーリー）作成まで, 新曜社
- 佐藤郁哉著(1992). フィールドワーク：書を持って街へ出よう, 新曜社
- 佐藤郁哉著(2003). フィールドワークの技法 問いを育てる 仮説をきたえる, 新曜社
- スー・ベンソン編；稲谷ふみ枝, 石崎淳一監訳(2005). パーソン・センタード・ケア 認知症・個別ケアの創造的アプローチ, クリエイツかもがわ
- 山根寛(1997). 精神障害と作業療法, 三輪書店
- Yalom, ID., Vinogradov, S., (1989). Concise Guide to Group Psychotherapy. American Psychiatric Press